

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 これまでの経緯

6月議会	「基本的な方針（案）」を説明
6月30日	江津市説明（市長・副市長・教育長）
7月5日	江津高校関係者説明会
11日	江津工業高校関係者説明会
15日	地域説明会
8月9日	島根県総合教育審議会への諮問
上旬	産業界（商工会議所・商工会）からの意見聴取
9月13日	第2回島根県総合教育審議会
10月6日	第3回島根県総合教育審議会
17日	第4回島根県総合教育審議会
19日	島根県総合教育審議会からの答申
24日	パブリックコメント開始（11月23日まで）

2 第4回島根県総合教育審議会における審議状況

(1) 新設校の学科・学級数、及び答申原案に係る検討

- ・ 2案に絞り検討（別添資料1参照）
- ・ 答申原案を検討

(2) 委員からの主な意見

- ・ 統合する2校の対等性を考えると普通科系2学級60人、工業科2学級60人定員が良い
- ・ 大人が子どもたちにどう関わるかの視点で考えれば、1学級40人よりも30人のほうが目が届きやすい
- ・ 石見部の人口減少に対し、教育と地域振興をリンクさせて考えざるを得ない。地域が求める工業人材を1人でも2人でも多く育てるべき
- ・ 普通科系を、子どもたちが自由にカリキュラムを選べる総合学科とすることも検討してはどうか
- ・ 進学か就職か決めずに入学する生徒もいる。入学後の選択肢が広がるような学びを期待
- ・ 開校時期及び新設校の場所は、事務局案で異論なし
- ・ 答申には、島根県の強みである探究的な学びを生かすことを記載すべき

(3) 会長まとめ

- ・ 江津高校と江津工業高校の2校の統合により新設校を設置し、普通科系と工業科の2学科、各2学級60人定員とする枠組みを答申する
- ・ 学科名や教育課程、施設整備等の詳細は、開校を目的とする令和10年度に向けた地域のニーズ等を踏まえながら、県教育委員会において検討していただきたい

3 島根県総合教育審議会からの答申

- ・ 別添資料2参照

4 基本的な方針（案）

(1) 修正前 普通科系の学びを1学級40人、工業科を2学級80人とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文系進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	1学級 (40)	2学科 3学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ ロボット制御系 ・ 建築系 ・ 電気系 	2学級 (80)	

- ・ 設定理由
 - 普通科系の学びは、これまでの江津高校の主な進路先である、文系進学と看護・栄養・保育などの資格職を目指す進学の2コースを設定
 - 工業科は、県西部の工業人材育成のため、これまでの江津工業高校の学びを維持し4コースを設定
 - 6コースを各20人とし、計120人の定員とする

(2) 修正後 普通科系、工業科ともに2学級60人とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>進学をめざすコース（文・理）</u> ・ <u>地域課題を探究し進学をめざすコース</u> ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	<u>2学級</u> (60)	2学科 <u>4学級</u> (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ ロボット制御 ・ 電気系 ・ <u>建築土木系</u> 	2学級 (60)	

- ・ 設定理由
 - 地域の普通科系の学びのニーズに対応するため、現在の江津高校の入学人数に近い60人を普通科系の定員とし、理系進学や地域課題を探究し進学をめざすコースにも対応する
 - 普通科系と工業科の併置を生かした相互の学びも検討していく
 - 統合する2つの高校の対等性を確保

(3) 基本的な方針（案）の考え方

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 学科名、コース名、教育の具体的な内容については、地域の意見を丁寧に聴取しながら検討
- ・ 地域や地元教育機関等と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

5 パブリックコメント

(1) 内容・期間

- ・ 修正した基本的な方針（案）について意見を募集（別添資料3参照）
- ・ 10月24日（火）～11月23日（木）

(2) 意見の提出者数

- ・ 4人（11月2日現在）

(3) 主な意見の内容

- ・ 文理選択を可能とし理系進学に対応することで医師を確保するためには普通科系2学級が必要
- ・ 普通科系に地域が必要とする介護従事者の養成機能、または福祉・介護の学びを入れることを検討して欲しい
- ・ 現状の江津高校の学びや、島根県立大学浜田キャンパスとの連携を踏まえると、普通科系の「地域課題を探究し進学をめざすコース」は必要。
- ・ 人口減少の中で工業科2学級に固執するのは疑問
- ・ 地域振興の視点を無視した統合に反対
- ・ 学びの内容の異なる普通科系と工業科を統合することは生徒の学びの環境として相応しくない

6 今後のスケジュール

12月26日 教育委員会会議

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 第 3 回審議会での議論の概要

(1) 学科設定と定員のバランスについて

- ・ 江津高校の入学者数はここ数年 60 名前後を維持しており、普通科系の学びの定員を 40 人とするのは地域の中学生のニーズに合っておらず無理がある
- ・ 江津地域の子どもたちを江津地域で育て、定着させる、という考え方なら、地域の普通科のニーズに対応する必要がある
- ・ 江津工業高校はここ数年 40 人から 50 人程度の入学者。工業科の学びは 1 学級 40 人程度で良いかもしれないが、2 学級 60 人だとゆったりとした定員設定で少人数指導が可能で良い
- ・ 2 つの高校が統合されるときには対等性というのも大事な視点である
- ・ 教員配置を考えると工業科の学びの定員が多い方が良い。普通科系 1 学級・工業科 2 学級をベースに考える方が良い
- ・ 地域の産業界は人手不足。普通科系 1 学級、工業科 2 学級の方が産業界のニーズに応えられるのではないか
- ・ 次回は「基本的な方針（案）」と（案 1）の 2 案に絞って検討

(2) 学びの内容について

- ・ 普通科系の学びについては、総合学科等の可能性も考えられる
- ・ 工業科の学びにも探究的な学びが必要
- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携の中で、指定校的な学びの枠を広げることも学びの魅力につながる
- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携にコンソーシアムが関わり、地域に活動が広がると良い
- ・ 地域資源や地域の関係者とともに子どもたちを育てるという視点から地域の意見は大切
- ・ 中学生の意見を聴いて学びの内容を設定する必要がある

(3) 詳細検討に向けた要望

- ・ 普通科系、工業科の枠にとらわれず、入学した生徒が柔軟に進路を選択できるような方法がないか検討できると良い
- ・ 中学生に学校や学びの魅力を伝えるためには学科の名称も工夫する必要
- ・ 学びを充実させるための教員配置を検討する必要
- ・ 女子生徒が進学したくなるような学びの工夫が必要
- ・ 支援が必要な生徒への対応を考えておく必要

2 学科設定と定員のバランス

(案1) 普通科系の学びを40人1学級、工業科を80人2学級とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> 文系進学をめざすコース 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	1学級 (40)	2学科 3学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> 機械系 ロボット制御系 建築系 電気系 	2学級 (80)	

- 定員設定の理由
 - 普通科系の学びは、これまでの江津高校の主な進路先である、文系進学と看護・栄養・保育などの資格職を目指す進学の2コースを設定
 - 工業科は、県西部の工業人材育成のため、これまでの江津工業高校の学びを維持し4コースを設定
 - 6コースを各20人とし、計120人の定員とする

(案2) 普通科系、工業科ともに60人2学級とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> 進学をめざすコース(文・理) 地域課題を探究し進学をめざすコース 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	2学級 (60)	2学科 4学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> 機械系 電気系 建築土木系 	2学級 (60)	

- 定員設定の理由
 - 統合する2つの高校の対等性を確保
 - 地域の普通科系の学びのニーズに対応するため、現在の江津高校の入学者数に近い60人を普通科系の定員とし、理系進学や地域課題を探究し進学をめざすコースにも対応する
 - 普通科系と工業科の併置を生かした相互の学びも検討していく

3 新設校の場所及び開校時期

- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和 10 年度前後を想定

4 今後の検討に当たっての留意事項

- ・ 方針の決定に向けてはパブリックコメントを実施するなど地域の声を聴く機会を持つ
- ・ 今後、学びの内容を具体的に検討する際には、生徒や地域の中学生の意見も踏まえる
- ・ 開校まで、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

【別添資料2】

令和5年10月19日

島根県教育委員会 様

島根県総合教育審議会
会長 肥後 功一

令和5年8月9日付、島教企第508号で諮問のありました、江津地域の今後の県立高校の在り方について、別添のとおり答申いたします。

本審議会は、令和5年8月9日に島根県教育委員会より、江津地域の県立高校の今後の在り方について諮問を受けた。その後、地域関係者からの意見聴取などにより、江津高校、江津工業高校それぞれの高校と地域との関わりや子どもたちの学びや活動状況、人材育成の視点からの地元産業界のニーズなどを把握し、これまで4回にわたって県教育委員会が示した「基本的な方針（案）」に対する議論を重ねてきた。

江津地域においては、現状において、市内の私立高校の他、通学の利便性などから浜田市など他地域の高校に進学する生徒が一定数あるなど、中学生の進路の選択肢が多い。こうした中で、今後、更なる少子化が進み、県教育委員会が示した推計のとおり中学校卒業生数が減少すると仮定すると、江津地域の子どもたちの教育環境の維持、進路の選択肢を維持するためには、令和10年度前後を目途に江津高校と江津工業高校の2校を統合し、新たな魅力ある高校を設置することが望ましいと考える。

そして、この新設校においては、島根県の教育の強みである探究的な学びを生かしていくことが必要である。また、設置に向けた基本的な方針の議論において重視すべき点は、現在の江津市内中学生の進路選択における普通科へのニーズの大きさと、県西部における工業人材を育

成するための工業科の重要性であり、さらに、一定の対等性も必要である。これらを満たす大きな枠組みとして、新設校における学科と学級数及びそれぞれの定員を以下に提示する。

<新設校のイメージ>

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学をめざすコース（文・理） ・ 地域課題を探究し進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	2学級 (60)	2学科 4学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ 電気系 ・ 建築土木系 	2学級 (60)	

なお、この新設校は、県内初の普通科系の学科と工業科が統合する高校となる。また、地元の島根県立大学や島根職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ島根）との連携を生かすことや、教員配置の充実等により、これまで以上に先進的で魅力的な学びが実現できる可能性がある。県教育委員会が今後、教育課程等の具体的な検討を進めていくに当たっては、上記の枠組みに加えて以下に示す視点を考慮することで、新設校が地域や中学生にとって、より魅力的で生徒一人ひとりの「なりたい自分」を叶える高校になると考える。

(1) 県内初の普通科系と工業科が併置された高校ならではの魅力
の検討

- ・ Society 5.0^(注)に対応した魅力ある学科・コース名を検討
- ・ 生徒の主体的な選択の幅がある教育課程の検討
- ・ 単位制や総合学科など、多様な学びのニーズへの対応を検討
- ・ 探究活動や課題研究などにおける、学科間での授業の相互
乗り入れ
- ・ 普通科系の生徒が工業科の資格を取得
- ・ 工業科の生徒が普通科系の生徒と共に進学を目指す

(2) 地域や近隣教育機関との連携による魅力的な学びの検討

- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携を深める
 - 探究活動や課題研究を連携・協働して行うことで、地域
が必要とする知識や技術を身に付けようとする意欲を醸
成
 - 先行履修や入学前単位取得、入学卒の確保による進学
意欲の醸成

- ・ コンソーシアムを通じた幼・小・中と連携した探究活動の広がり

(3) 生徒一人ひとりへの指導・支援の充実

- ・ 学びを充実させるための専門性を備えた常勤教員の確保
- ・ 支援が必要な生徒に対する教育内容・方法の充実

(4) その他

- ・ 今後の検討においては、地域や中学生の意見を丁寧に聴取すること
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直すこと

このたびは、今後の中学校卒業生数の減少が著しい江津地域において、子どもたちにとって望ましい教育環境を将来にわたっていかに維持・向上させることができるかについて議論してきた。

しかしながら、少子化の進行は島根県全体が抱える課題であり、今回の議論は、今後の島根県全体の高校教育についての多くの示唆を含む

ものであったと考える。

県教育委員会においては、この答申を踏まえて今後の検討を深めていただくことを期待するとともに、魅力ある高校づくりが、魅力ある地域をつくることに繋がっていくことを期待するものである。

(注)Society 5.0・・・狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 はじめに

近年の少子化の影響により、江津地域においては、市内中学校卒業生数が令和5年3月の180人に対し14年3月は140人(22.2%減)と推計され、隣接する浜田市内(7.8%減)と比べて減少傾向が顕著である。さらに、直近5年の江津市の出生数も平成30年132人、令和元年136人、2年112人、3年113人、4年112人と減少傾向にある。

また、江津地域の中学校卒業生の希望進路は多様であり、市内の私立高校、他地域の県立高校、さらには県外の高校等を希望する生徒が一定程度いるため、近年の江津高校、江津工業高校への進学者をあわせて40%程度に留まっている。江津地域の令和10年前後の中学校卒業生数が150人前後と見込まれることから、両校への進学を希望する生徒数は、1学年60人程度、江津市外からの入学者を加味しても100人程度と想定される。つまり、現在の1学年2学級80人定員の2校を、将来にわたって維持することは困難であると考えられる。

こうしたことから、県教育委員会では江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で、将来にわたって充実した高校教育を提供し、卒業後の進路につなげることができるよう、江津地域の今後の県立高校の在り方について検討してきた。

浜田市・江津市を一体的に考えた場合、昭和33年以前のように浜田高校、浜田水産高校、江津工業高校の3校の形に戻すことも考えられるが、昭和33年に江津市待望の普通科高校が設置され、以降、65年間にわたり普通科人材を輩出してきたことを考慮すれば、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域に普通科系の学びの場を残すことが必要と考える。

一方で、石見地域における工業人材の育成の観点からは、工業教育のさらなる魅力化も必要である。現在、石見地域における工業人材の育成は、益田翔陽高校の2学科と江津工業高校の2学科によって担われているが、江津工業高校はその長い歴史の中で、石見地域における工業人材の輩出に大きく貢献してきており、現在も地元産業界から大きく期待されている。

こうした視点を踏まえた高校教育を実現するためには、両校を統合し、1学年100～120人規模の新たな魅力ある高校を設置することが望ましいと考え、有識者で構成する島根県総合教育審議会からの答申も踏まえながら、江津地域の今後の県立高校の在り方について基本的な方針(案)を決定した。

2 現状

(1) 江津高校と江津工業高校の入学者数等

高校	年度	H31	R2	R3	R4	R5	5年平均
江津高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	72 (1)	55 (4)	57 (2)	60 (1)	66 (2)	62 (2)
	定員充足率	90.0%	68.7%	71.2%	75.0%	82.5%	77.5%
江津工業高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数(県外生)	50 (0)	55 (1)	49 (2)	41 (1)	45 (0)	48 (1)
	定員充足率	62.5%	68.7%	61.2%	51.2%	56.2%	60.0%

(2) 江津市内中学校卒業生数推移

卒業年月	R3.3	R4.3	R5.3	…	R8.3	…	R14.3
中学校卒業生数	190	190	180	…	148	…	140
R5.3比	+10	+10	—	…	△32	…	△40

※ R8.3とR14.3の卒業生数は、令和5年5月1日現在の小中学校在籍者数より推計

(3) 江津市内中学校卒業生のうち高校(全日制)進学者の内訳

年度		R3	R4	R5	…	R8
江津高校		47 (+市外10)	46 (+市外14)	45 (+市外21)	…	35 (+市外14)
江津工業高校		20 (+市外29)	20 (+市外21)	20 (+市外25)	…	15 (+市外25)
私立高校 及び その他地域	浜田市内県立	40	34	26	…	87
	江津市内私立	36	36	37		
	その他県内	27	33	23		
	県外	6	8	11		
計		176	177	162	…	137

※ R8の進学者は、令和5年度までの入学者数により推計

3 基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 学科名、コース名、教育の具体的な内容については、地域の意見を丁寧に聴取しながら検討
- ・ 地域や地元教育機関等と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

<新設校のイメージ>

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学をめざすコース（文・理） ・ 地域課題を探究し進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	2学級 (60)	2学科 4学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ 電気系 ・ 建築土木系 	2学級 (60)	